

1. 科目名（単位数）	国際関係論（国際法を含む）（2 単位）	3. 科目番号 GELA3318	5. 開講学期 春期
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	本科目履修にあたっては事前に以下に挙げる科目的事前・事後履修を推奨します。履修可能な範囲で意欲的に取り組んで下さい。 事前・事後履修を推奨する科目：「政治学」「経済学」「国際社会と日本」「世界史」「日本史」		
7. 講義概要	本科目は、国際政治や国際経済に関する諸問題について理解を深めることを目的とする。また、人権、国家主権や領土の問題など、国際法の考え方についても取り上げる。		
8. 学習目標	1) 国際関係論における基本的な考え方、重要な概念について理解し説明できる。 2) 国際社会における政治・経済動向について関心をもち、諸問題について多面的に検討し思考することができるようになる。 3) 国際社会における行動主体とその関係について理解できるようになる。		
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	リーディングアサインメントを課します。論述で解答する場合と確認テストにて解答を求める場合があります。基本的に、2回以降はテキスト持参が必須になります。前回講義時に指定された範囲のテキストの読み込みとともに、各講義回に設定された課題について自分なりの解答をもって講義に臨んでください。 講義では上記をリーディングアサインメント（RA）と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のうちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。配付を受けるまでは上記課題を意識してテキストの各章を読んでみましょう。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】      北岡伸一『国連の政治力学—日本はどこにいるのか』中央公論新社、2007年。      （以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。）</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013年。          本講義ではサブテキストとして紹介する。</li> <li>田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣ブックス、2004年。          国際政治、国際経済の分野の専門用語、トピック163項目を解説しています。「集団安全保障」「開発主義」といった本科目でも取り扱う概念について更に理解を深めたいときには有益です。</li> <li>羽場久美子・増田正人編『21世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003年。          最新事情については参考できないが、1990年代からの国際社会の変化について22のトピックで分かりやすく解説している。</li> <li>東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。</li> <li>原康著『岩波ジュニア新書 国際関係がわかる本』岩波書店、1999年。          高橋和志ほか『岩波ジュニア新書 国際協力ってなんだろう』岩波書店、2010年。</li> </ol> <p>教科書の内容に難しさを覚えた学生は参考することをお勧めします。後者は教科書の第6章～10章で取り扱いのある、アジアの状況について中心的に取り上げております。      ほか、高等学校において使用した世界史資料集などが本科目の学習の手助けになる。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際関係論における基本的な考え方、重要な概念について理解し説明できる。</li> <li>国際社会における政治・経済動向について関心をもち、諸問題について多面的に検討し思考することができるようになる。</li> <li>国際社会における行動主体とその関係について理解できるようになる。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>成績評価の規準1)～3)についての達成度を以下の方法により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各受講生の参加意欲・態度（課題の提出状況も含む）について総合的に評価する。(30%)</li> <li>各受講生の授業での発言・共同作業（ディスカッションなど）の実態等から総合的に評価する。(30%)</li> <li>各受講生の知識理解や思考の深まりについて、試験・レポートから評価する。(40%)</li> </ul> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国際関係論が取り扱う領域は広範にわたります。原則、テキストのトピックについて学習を進めていくことになります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。</p> <p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業に集中してください。（積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁）</li> <li>欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。（事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください）正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。</li> <li>明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。</li> <li>教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。</li> </ol> <p>また、教員は次のことを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。</li> <li>受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。</li> <li>一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作ります。</li> <li>遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話（メール・通話）の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</li> </ol> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応します。toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバスを必ず持参すること。コピーなども可。) 国際関係論についての基礎知識	事前学習	テキストの目次を参考に国際関係論（国際政治学および国際法について）が議論する観点を見ておくこと。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。 課題：リアリズムとリベラリズムとは何か。 次時以降のリーディングアサインメント(RA)に取り組む。
第2回	世界の中の国連、国連の中の日本①…第1章 アメリカ・システムとは？	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：国連の現状について調べてみよう。
第3回	世界の中の国連、国連の中の日本②…第1章 国連分担金から考える各国の動き	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題北岡伸一『国連の政治力学—日本はどこにいるのか』について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：国連の果たす役割について調べてみよう。
第4回	国連総会のダイナミクス…第2章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：国連における日本の役割について調べてみよう。
第5回	国際政治の歴史的視角① 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（1） ドイツ三十年戦争およびウェストファリア体制の現代的評価	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：ドイツ三十年戦争の経過を教科書以外の参考文献も活用して調べてみよう。
第6回	国際政治の歴史的視角② 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政理解（2） フランス・ドイツに見る「国民国家」形成の過程	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：フランス・ドイツ国家の国民意識が形成される過程には何があったのだろう。
第7回	戦後日本外交と国連…第3章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：「国連中心主義」について調べてみよう。
第8回	外交という仕事…第4章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：発展途上国への支援はどうあるべきか考えてみよう。
第9回	国連代表部から見える世界…第5章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：シェリング『行動の自由の逆説』とは何か調べてみよう。
第10回	安全保障理事会から見える世界…第6章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：なぜ軍拡競争が起ころのか。囚人のジレンマの論理を手がかりに考えてみよう。
第11回	PKOの実態…第7章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：日本のPKO活動について調べてみよう。
第12回	安全保障理事会改革の意味…第8章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解

			答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：国家と国際連合の関係について考えてみよう。
第13回	歴史認識問題と戦争責任とは…第9章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：歴史認識問題について考えてみよう。
第14回	国連の政治力学一なぜ改革は停滞するのか…第10章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 課題：国連で影響力を發揮するには
第15回	これからの日本と国連…第11章・終章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 アサインメントすべてを見直す。 課題：今、目の前にある世界はどうしてこうなったのか。
期末試験			